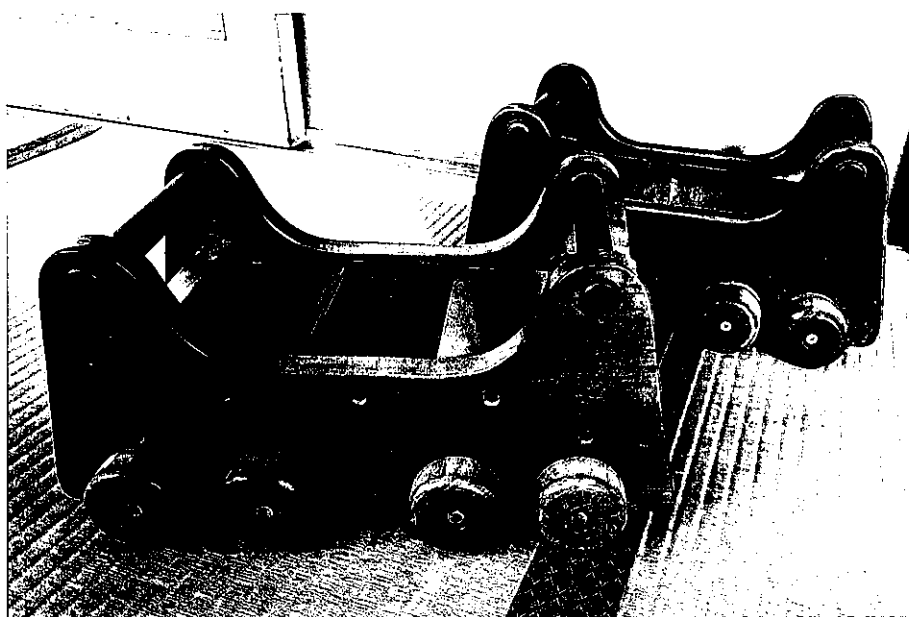


おもいで



年表でみるゆりかごの歩み

共同保育所時代

1968年7月 橋本・笹田・矢島宅の間借り時代から地下室時代を経て「ゆりかごの家共同保育所」ができる

- 情勢
- 父母の会活動

■「産休明け保育」は制度外

当時、国や自治体は「産休明け保育」を認めず、産休明けから入所できる保育園はなかったため、0、1歳の保育は父母と保育士による共同保育所が守ってきました。

札幌では1967年から5年間で8カ所の共同保育所ができました。

1968年、2名の子どもが橋本宅で（ゆりかご①北12条東2丁目）、1名の子どもが笹田宅で（ゆりかご②琴似八軒）、2名の子どもが矢島宅（ゆりかご③北7条西6丁目）で過ごしました。

ゆりかご③の子どもが9名になり引越しました。これが地下室時代です。

1969年、簡易保育所と認められ補助金を受けることになり、ゆりかご①と③が合併して北9条西2丁目に引越しました。

スタート時、2～3名だった子どもは44名になり、保育士も1名から13名に増えました。

1970年 子どもが25名になり、北7条西6丁目のクリスチャンセンターへ引越す

1971年4月から12月

申込みがどんどん増える

「鉄西地区に保育所を」の署名がはじまる

札幌市議会で請願が採択される

ゆりかご保育園後援会準備会発足



■みんなの力でみんなの保育園づくり

制度外だった0歳児を受け入れるため、2歳になった子は次々と他の認可園に転園してもらわなければなりませんでした。0歳から6歳まで一貫した保育をしたいという保育士と、一貫した保育を受けさせたいという父母の思いから、子どもの幸せを願う父母と保育士が手をつなげる保育園づくりが始まりました。

当時、札幌市には父母や保育士が運営に参加できる、いわゆる民主的な保育園は一カ所もありませんでした。よりよい保育園をめざすために、父母も保育士も自由に発言ができ、意見が出せる保育園にすることを大切にしてきました。

1972年6月 札幌市の土地探しに待ちきれず、自分たちで探し始める

- 7月 財務局にて北18条西7丁目の土地をみつけ、
札幌市と交渉
11月 ゆりかご保育園後援会正式発足

■ゆりかご保育園後援会とは

「ゆりかご保育園建設実行委員会」を「ゆりかご保育園後援会」へと発展させました。
その活動は、
○保育園の運営に財政的な援助をする
○乳幼児教育の学習と保育政策の改善
です。

園舎建設のための資金づくり活動開始
実践集「0、1歳児の保育実践」発行
理事会準備会発足
新園舎の設計を依頼

- 1973年3月 ●札幌市の昭和48年度保育所設置計画の発表
(ゆりかご保育園を含め11カ所)

- 4月 鋳入れ式
5月 着工 大バザーを開き30万円の収益
7月 棟上げ式
9月 児童福祉法による社会福祉法人設立の認可が
おりる



■幌北ゆりかご保育園時代

1973年10月1日 幌北ゆりかご保育園 開園

■幌北ゆりかご保育園 開園

多くの方の熱意と必死の努力で、1973年10月、現在の幌北ゆりかご保育園が開園しました。

3歳未満児76名、3歳以上児24名の計100名で、0、1歳児の受け入れ可能な保育園が不足していたことから乳児が76%にもなりました。

厚生省（当時）へは120名定員で申請しましたが、乳児が多いことを理由に定員を110名に直しました。

徐々に3歳未満児を減らしていきましたが、定員は110名のままと35年間続けてきました。10名減の運営は大変苦しいものでした。でも保育は落ち着いてきました。

- 「心の里親乳児保育園」産休明け保育テスト
ケースで始まる

■よりよい保育をめざして

よりよい保育をめざし、制度外のことも実施してきました。

○障がい児保育

開園と同時にダウン症の3歳児を受けいれました。翌年には「障がい児保育を育てる会」を発足し、父母と共に障がい児保育の学習と補助金獲得運動に携わってきました。当時、障がい児保育の人員費は、1園に9名入園して初めて2名の加配保育士がついたため、補助金申請の対象になりませんでした。園が2分の1、育てる会が2分の1を負担し、さらにコロッケを日常バザーで売る財政活動を続けました。

1983年には、障がい児保育に補助金が付くようになりました。軽度障がい児1名で1日3.5時間、重度障がい児でも1日4時間程の人員費しか加算されませんでした。これまで年間1～3名の子どもを受け入れてきています。

○長時間保育

児童福祉施設最低基準では保育時間は原則8時間となっています。運営費はそれに合わせて組まれているため、札幌市は17時から18時はお迎え時間と主張していました。夕方の保育をテレビに頼るか、お迎えを17時までにするか（16時までという園もあった）どちらかの対応をとる園が多い中、ゆりかご保育園は18時までを保育時間ととらえ、1974年父母負担で夕方保育士を配置しました。1976年当時の父母負担は、平日8時間以上9時間以内の方で月1300円、9時間以上の方は月1800円、土曜日も15時以降の保育が必要な方にはお迎え時間に合わせて保育改善費として負担して頂いていました。

対市交渉や署名などの保育運動で、長時間保育のための人員費補助を要求し続け、10年かかって1985年に父母負担額がゼロになりました。

※「時間外の恒常的な保育は延長保育補助による保育が適当」と長時間保育人員費補助は2008年度から廃止されました。

○食物アレルギー

1980年から、食物が主に原因で、摂取すると何らかの症状が現れる食物アレルギーを持つ子どものためにアレルゲンとなる食品を除去する「アレルギー除去食」を開始しました。

1982年には除去食の必要な園児は10名いて「アレルギー児を持つ親の会」が発足しました。

2008年、ゆりかご保育園の父母や職員たちが札幌市に粘り強く働きかけた結果、食物アレルギー児保育事業補助がつけました。

○早朝・延長保育

1985年に長時間保育人員費補助がついて以来、札幌市内の保育園の開所時間は8時から18時の10時間が定着していました。また、札幌市は国の「延長保育特別対策の実施について」の方針（1981）を受けて、翌1982年10月より、札幌市の補助事業として民間の認可保育園5カ所で、18時～19時の延長保育を開始しました。ゆりかご保育園では1989年、父母の会が早朝保育（7時30分～8時）を自主運営で開始しました。その後週休2日制が各職場で進むにつれ、平日のお迎えが18時以降にずれ込む父母が急増し、1992年1月、ついに18時～19時の夕方延長保育が父母たちの自主運営で始まりました。

早朝保育自主運営の実績と父母たちの市への働きかけ、また、厚生省（当時）の動きもあって、札幌市は1993年4月より早朝30分と夕方1時間の小規模延長保育（10～12名）をスタートさせました。ゆりかご保育園を含め2園が指定を受けました。

1995年より延長保育は補助事業から札幌市との委託契約事業に移行しました。1999年、厚生省（当時）及び札幌市は全国的に保育園の開所時間をこれまでの10時間から11時間に延長し、更に1時間及び2時間の延長保育をする保育園を増やしていく方針を出しまし

た。行政からの方針を受け、ゆりかご保育園では保育が混乱しないように、また、現行の保育の質を低下させないために独自の保育方針を立て、現在の保育体制に至っています。現在の補助金は国基準のみの金額で、自治体加算分はゼロです。

- 1974年 保母の職業病続出
施設改善のため、工事が行われる
長時間保育の父母負担の実施
「保母の職業病を守る会」発足
「障がい児を守る会」発足
- 1975年 パンフ「手をつなぐ子らを…」発行
- 夜間保育所できる
- 1977年 保母の産休続出
- 保育ママ制度実施
- 1978年11月 開園5周年記念の集い
- 1979年 パンフ「そだちあう」発行
- 事務職員雇用費補助がつく
 - 父母の会発足
幌北ゆりかご保育園後援会発足
- 1980年 玄関・土台補強工事
食物アレルギー除去食開始
- 1981年 1階、3階ホール床の木製工事
- 6カ月未満児の打ち切り通告
- 1982年
- 西区に夜間保育専門園できる
 - 札幌市の補助事業として各区に1カ所18時～19時の延長保育実施
 - アレルギー児を持つ親の会発足
2階テラス足洗い場設置
建設資金借入金のうち個人借入の大部分を返済、バザーの収益で初めて子どもたちへプレゼント
2階保育室に棚設置
- 1983年6月 10周年記念ニセコ登山
9月 開園10周年記念集会
記念誌「ひびきあい」発行
園舎内装・外装工事
- 1984年 夕方保育を考える小委員会発足
- 1985年
- 夕方保育改善費 父母負担ゼロに
開園1年目より実施してきた父母負担による夕方保育の改善費を市の補助金で8人確保

手をつなぐ子らを

— 保育園の保育ママをとりもって、1年間のあゆみ —

1. 保育園の保育ママをとりもって、1年間のあゆみ
2. 保育園の保育ママをとりもって、1年間のあゆみ
3. 保育園の保育ママをとりもって、1年間のあゆみ
4. 保育園の保育ママをとりもって、1年間のあゆみ



なつ、ほろ、ゆりかご保育園

そだちあう

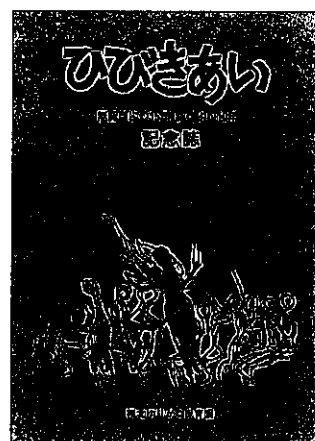
ゆりかご5年の歩み



1979年、なつ、ほろ、ゆりかご保育園

ひびきあい

開園10周年記念誌



手押し信号機設置

父母の会が地域住民や警察に訴え続けた結果、5年かかって設置が実現

はと・りす・ぞう組のストープ取り替え

1986年 5月 1階足洗い場設置

8月 第1回ゆりかご夏祭り開催

10月 駐車場確保

1988年 開園15周年記念行事

親子で楽しもう会・観劇「まわせ水車」

記念アルバム「芽が出てふくらんで～保育園の子どもたち～」発行

1989年 4月 ○父母の会による早朝保育が始まる

利用料は1回1人500円、2人800円

○おやじの会発足

1990年 ●予備保母1名正職化決定

●産休明け保育実施（0歳児3名）

玄関改修工事

園庭改修について全体会を実施

園庭改修工事

1991年 ○夕方延長保育を考える会発足

全世帯向けのアンケート実施

園より保育実態の資料提出

園舎建設資金返済完了

1992年 1月 園内組織の見直し



■園内の組織見直し

後援会を中心に、春秋2回のバザー、及び日常バザーで毎年100万円の返済をし、18年かかって2000万円の借金を返済しました。

1992年、建設資金借金返済完了を機に、「梶北ゆりかご保育園後援会」は「ゆりかご保育園を育てる会」へ、理事・職員・父母・後援会の4者で園を民主的に運営していた「評議委員会」は理事・職員・父母の3者による「運営協議会」へ、「後援会ニュース」は「ゆりかご通信」へと変わりました。

○父母の会による夕方保育が始まる

園舎建設資金返済完了祝賀会

菅野・小出共著「4歳児 つかまったら泣かないよ」旬報社より出版

5月 延長保育制度の見直し

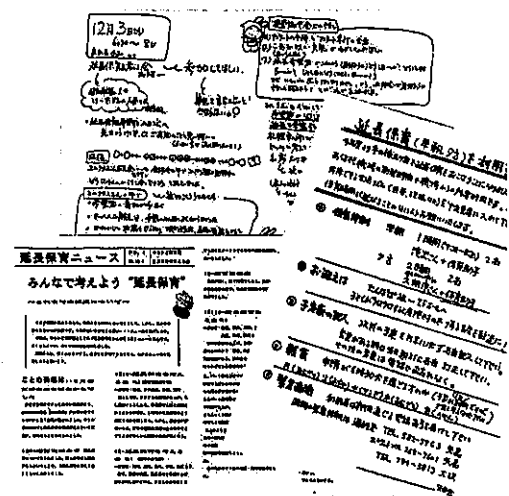
6月 園庭砂入れ

9月 ○施設改善に対するアンケート実施



つながりあいーゆりかご35周年

- 10月 ボイラーの仮設工事
園庭の遊具（登り棒、つな、ネット）設置
- 12月 延長保育利用者全体会議
現利用者がスムーズに移行できる条件で公
的補助を受けていく方針を確認
- 1993年 中央競馬会馬主会から保育園に500万円の補助
市の指定を受けて延長保育開始（朝30分、夕
方1時間）
川村理事長急逝 新理事長に佐々木洋氏就任
ゆりかご通信創刊号発行
「幌北ゆりかご保育園後援会」より「ゆりかご
保育園を育てる会」へ移行（通称ゆりかご会）
- 1994年1月 開園20周年記念祝賀会職員OG会
ゆりかご塾 20周年記念講演
ゆりかご20周年記念祝賀会（札幌会館）
- 8月 年度途中のクラス移動
○おやじの会 キャンプを企画
- 1995年 ●国の予算化を受け、新たな延長保育事業に切
り替わる
トイレを中心に1・2階改修工事
- 1月 ○父母の会の取り組みに関するアンケート実施
- 7月 春のバザーを夏祭りと同時に開催
- 1996年1月 ゆりかご会交流会の開始
従来のパーティー形式ではなく簡素化
○157発生予防のため給食への生野菜の提
供を取り止め
- 11月 ○収益事業としておやじの会が「熱燗パーティ



■ゆりかごの子ども像

豊かな保育をめざし、創りあげていくためには、具体的なイメージとして「どのような子どもに育てたいのか、どんな人間像をめざすのか」を確認しておく必要があります。

これが「子ども像」で、開園する際に父母と職員で討議し、一致させてきました。

- 身体の丈夫な子
- 仲間をおもい、仲間も自分も大切に子
- 自分で考え、正しいと思うことを言えていきいきと行動できる子
- 働くことに喜びを感じる子
- 自然を愛する子

この「子ども像」を各年齢の発達段階において、どう具体化するかの目安は「年齢別年間目標」で示されます。これらは年度始めに、年間保育計画をたてる時の貴重な資料になってきました。私たちはこれらの「子ども像」をめざしながら、各人の創意や工夫をもちこんだ保育を展開させてきました。

赤鬼の出現

幌北ゆりかご保育園の〈子ども像〉に「自分で考え、正しいと思うことを言えていきいきと行動できる子」のくだりがある。自らの内気な乳幼児時代の想いも重なり、これは、いささか難しすぎるスローガンだと思ふことがしばしばあった。ところが、10年余前のこと、国際学術シンポジウムのために来札していた客人夫妻が、わが保育園を見学したいというので、案内したときのハプニングから、私の懸念は杞憂に過ぎないことを、園児たちに教えられた。

2階にあがり西の戸を開けると、ゲームに集中していた子ども達が私どもの来室に気づいた。客人夫妻は大変喜んで愛好を崩し何か話しかけようとしたが、園児らの反応は対照的であった。リーダー格が身構え「赤鬼だ」と叫ぶと、全員が「赤鬼だ、何しにきた」と口々に呼応した。子ども達は、本物の「赤鬼」が突然、部屋に現れたと感じたのだろう。ロンドンから来た客人は、大柄で顎も頬もごわごわの毛むくじゃら。これまでうかつにも承知していなかったが、髪と髭のはざまに何と赤みの肌が光っていた。メルヘンと現実とを自由に行き交う子らのみずみずしい感受性と行動力に畏れ入った。

佐々木 洋

ー」に取り組む

- 1997年 保育室・3階ホール壁面・棚改修工事
- 7月 ○おやじの会主催「熱燗パーティー」の売上で
プール新調
- 11月 おやじの会・職員による園庭整備
●児童福祉法改正
- 1998年 8月 ○ゆりかご保育園野球チーム結成
- 9月 ○ゆりかごホームページ 父母による自主運営
でスタート
- 園の歴史、保育内容の紹介、保育相談、給
食内容の紹介、各種活動の紹介など
- 10月 開園25年記念学習会及び交流会
北大オリエンテーリング、無認可より30年
をふりかえるスライド鑑賞



■年度途中での園児受け入れ

国は待機児童対策として、1998年に緊急入所で120%の入所を、1999年には125%の入所を認めました。

ゆりかご保育園は無認可時代からの職員を含め、保育経験30年以上の職員が5名、20年以上の職員が6名います。運営費内の正職員の人件費は約6年平均のため、平均勤続年数が高いゆりかご保育園は、民間給与改善費の加算率が最高ランクであっても、昇給率を低く抑えた園独自の給与表で対応せざるを得ないのが実態です。

そこで、

- 入所児を増やし、人件費財源を確保
- 増える待機児童の解消
- 2重保育をしている保護者の負担軽減

などの理由から、1998年にゆりかご保育園でも超過入所に踏み切りました。

2004年、0歳児の入所希望が多い時に対応できるように、1階ホールに可動式仕切り戸を設置しました。

11月 延長保育制度改正問題について、クラス懇談会にて説明

次年度の0歳児を年度途中で受け入れ

12月 ○おやじの会「熱燗パーティー」の売上で絵本とおもちゃを購入

- 社会福祉基礎構造改革

1999年 1月 開園25周年記念祝賀会開催（札幌会館）

3月 ゆりかご保育園独自の延長保育制度を実施

- 延長保育推進事業、開所時間11時間となり、さらに延長保育をする園に対し補助

2000年 1月 ○「園を通じた親同士の関わり合い」のアンケート実施

3月 玄関・事務室・2階サンルーム改修工事が終わる

- おやじの会「熱燗パーティー」の売上で白と杵を購入

6月 ゆりかご文庫開始

8月 ○水いぼに関するアンケート実施

11月 ゆりかご文庫開設記念研修会

- 保育所設置認可の規制緩和

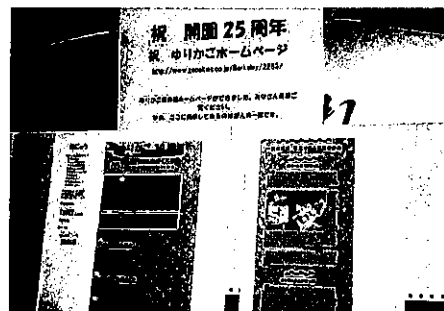
2001年 2階すべり台周辺改修

6月 ○水いぼ学習会

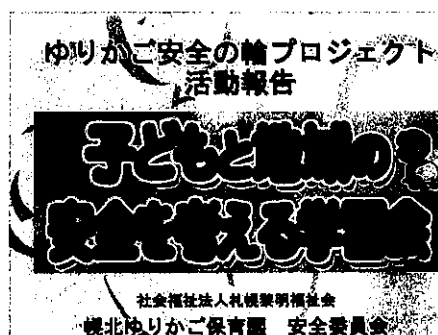
7月 ○水いぼに関する意識調査

12月 ゆりかご憲章ワーキンググループ発足

2002年 1月 矢島園長定年退職記念講演会



- 3月 矢島園長をおくる会（サンプラザ）
矢島園長定年退職
- 4月 菅野由美子新園長 就任
- 6月 園庭遊具、柵改修
 - 新入園家庭歓迎ソフトボール交流会をバーベキューパーティに変更
- 10月 開園30周年記念バザー
- 2003年 2月 開園30周年記念祝賀会
- 3月 給食室改修工事
- 5月 ○父母の会規約変更
 - 飛び級についての意見が父母の会総会に提出される
- 6月 保育に関する全体集会
- 9月 事故発生
 - 2歳児の園児3名が、保育中に保育士の管理下を離れて園外へ。うち1名が事故に遭い重体となる
 - 事故に関するアンケート実施
- 2004年 1月 安全委員会設置
- 4月 安全管理マニュアル制定
- 8月 屋根の修理及び防水工事
 - 公立保育所運営費一般財源化
- 2005年 4月 園舎外壁修繕工事
- 5月 ノロウィルス集団感染
 - 安全委員会が迅速に対応
 - ゆりかご保育園公式ホームページ開設
- 7月 玄関ドアを自動ドアに
 - おやじの会「熱燗パーティー」の売上で鍋焼き機を購入
- 2006年 3月 異年齢保育導入にむけて全体説明会
 - 異年齢保育に関するアンケート実施
- 4月 保育園生活のしおり作成
- 6月 異年齢保育本格実施
- 7月 安全管理マニュアル改定
- 10月 ●認定子ども園法 成立施行
 - ゆりかご安全の輪プロジェクト発足
 - ゆりかご安全の輪プロジェクトに札幌市青年会議所ブルーアース基金より助成金（25万円）がつく
- 12月 ゆりかご安全の輪プロジェクト主催第1回学習会



つながりあいーゆりかご35周年

東京パブリック法律事務所弁護士 寺町東
子氏講演

2007年1月 ゆりかご安全の輪プロジェクト主催第2回学
習会

親業シニアインストラクター 高橋美恵子
氏講演

2月 ゆりかご安全の輪プロジェクト主催第3回学
習会

つくしの子共同保育所への出張学習会

- 子ども未来局より市有保育所用地の有償化の
方針が打ち出される

私保連、日保協の反対が強く平成20年度に
ついては保留となる

- おやじの会「熱燗パーティー」の売上で乳児
用プールを新調

2008年1月 開園35周年記念事業第1弾「ゆりかご誕生か
らその歩みをふりかえる」

3月○ゆりかご保育園35周年記念誌アンケート実施

4月●食物アレルギー児保育事業補助がつく



35周年記念行事第1弾
ゆりかご誕生から、
その歩みを振り返る

2008年1月26日(土)15:30～
ゆりかご保育園3階ホール



新年表 (2009～2023)

- 2009年 2月 開園35周年記念祝賀会 記念誌『つながりあい』発行
- 4月 保育所児童保育要録を小学校に送付することが義務付けられる
- 9月 新型インフルエンザ流行
- 2010年 年末年始の休日変更 (12/30～1/5→12/29～1/3)
- 2011年 3月 東日本大震災発生
- 5月 おやじの会「熱燗パーティー」の売り上げで太鼓を購入
- 12月 1階ホール床張り替え工事
- 2012年 8月 「子ども子育て関連3法」が成立
- 12月 門扉取替工事
玄関床張り替え工事
- 2013年 保育士等処遇改善臨時特例事業開始
- 9月 たんぽぽ組床張り替え工事
3階ホール床張り替え工事
- 2014年 2月 開園40周年記念祝賀会
バザー、夏まつり、おやじの会の三者で綿あめ機を購入
- 4月 認可保育所貸与地有償化開始
- 10月 札幌市では全区で5歳児健診・5歳児発達相談を実施
- 11月 保育室(ひまわり・ちゅうりっぷ)床張り替え工事
- 2015年 4月 子ども・子育て関連法案が成立施行
保育所運営費・歯科検診・開所の補助金が委託費に吸収
保育士処遇改善等加算Ⅰ支給開始
異年齢クラスを2クラス(ひまわり31名、ちゅうりっぷ33名)から3クラスへ(ばなな・ぶどう・みかん)
- 7月 園庭の坂を補修
- 2016年 2月 異年齢クラスの机と椅子が新しくなる
- 12月 ばななの部屋床張り替え工事
- 2017年 1月 ゆりかご会交流会
キンダーリースをよんでの学習会
- 2月 社会福祉法人改革による定款変更
- 3月 評議員4名決定(常盤野・本多・大沢・佐々木一)
- 4月 保育士処遇改善等加算Ⅱ支給開始
札幌市による業務効率化推進事業の補助金が交付される
ICカード対応の端末が届き、登降園時はカードで打刻
- 9月 2階トイレ前の床張り替え工事



2009年 2月
開園35周年記念祝賀会 記念誌『つながりあい』発行



2011年 5月
おやじの会「熱燗パーティー」の売り上げで太鼓を購入

- 10月 2階テラスのコンクリートの上にゴムチップ弾性舗
装材吹き付け工事
- 2018年9月 北海道胆振東部地震発生
- 9～10月 隣の病院のブロック塀解体工事及びフェンス設置工
事
- 10月 安全管理マニュアル改定
- 2019年2月 開園45周年記念祝賀会
 - I 部記念講演 中谷道恵氏『乳幼児期から見通そ
う！子どもとメディアの良い関係』
 - II 部交流
- 10月 幼児教育保育の無償化 副食費の実費徴収
- 2020年2月 新型コロナウイルスの流行
 - 卒園式や運動会の人数制限時間短縮等を決定
 - 登園自粛要請始まる
- 3月 評議員4名に加え新たに3名が決定（岡・田中・木
村）7名となる
- 6月 3階ホールエアコン設置工事
- 10月 新型コロナウイルス感染症対策事業費補助金の交付
- 2021年2月 処遇改善特例手当新設
- 5月 陽性者が確認され休園措置をとる（約3時間後には
解除）
- 6月 たんぽぽ組の部屋にエアコン設置
- 2022年2月 陽性者が確認され休園措置（3日間）
- 4月 陽性者が確認され一部休園措置（濃厚接触者のいる
クラス）
 - 処遇改善特例手当が保育士処遇改善等加算Ⅲとして
公定価格に吸収
- 10月 物価高騰・給食費補助金の交付
- 2023年4月 異年齢クラスを3クラスから2クラスへ（ひまわり
24名、ちゅうりっぷ25名）
- 6月 佐々木洋理事長退任
宮坂啓樹新理事長誕生



2019年2月 開園45周年記念祝賀会
I 部記念講演



2019年2月 開園45周年記念祝賀会
II 部交流会